



福岡県 株式会社 タイラベストビート  
「九州北部豪雨における募金活動及びボランティア活動への参加」事業



株式会社 タイラベストビート  
代表取締役社長  
平本雄嗣さん



6ホールの有志が中心となり、被災地に向いて復旧作業のボランティア活動を行った

記録的大雨に見舞われた地元を  
ボランティアや募金で支える

豪雨被害の復旧活動にボランティアで参加

2012年7月11日から14日にかけて、停滞した梅雨前線に向かって南から非常に湿った空気が流れ込み、九州北部を中心に集中豪雨となった。当時、その模様を伝える天気ニュースでは「これまでに経験したことのないような大雨」という表現が使われ、話題となったが、この大雨により福岡県柳川市を流れる2本の川の堤防が決壊するなど河川の氾濫や土石流が発生し、30名を超える死者・行方不明者が出たほか、広範囲に大きな被害もたらされた。

福岡県を中心に、九州一円に「ワンダーランド」37ホールを展開するタイラベストビートでも、柳川店の駐車場が全浸水するなどの被害を受けたが、被害の大きかった筑後地区にある6ホールの有志が中心となり、7月18日・24日の店休日を利用し、柳川市内の被災地に向いて復旧作業のボランティア活動を行ったほか、ホール内カウンターに募金箱を置き、復興支援のための募金活動を実施した。

「復旧作業には両日とも約30名の社員や派遣従業員が自主的に参加しました。現地のボランティア本部で数名ずつの班に分かれ、要請のあった世帯に出向き、水没した家財道具の運び出しや分別処分、泥の搬出などを行いました。二日とも35℃前後の気温と照りつける日差しの中での作業となったので、熱中症などに注意しながらの大変な作業だったと聞いています」と語るのは、管理部課長の玉崎太さん。作業に訪れた1軒は偶然、ワンダーランドによく来店されるお客様の家だったという。ボランティアに参加した社員や従業員からは、「被災された方が大変な状況に置かれていることを肌で感じる事ができた」、「特に年配の方の世帯には助けが必要」、「機会があれば、また参加したい」、「非常によい体験ができた」などの声が寄せられているが、なかにはボランティアに参加した動機として、東日本大震災での人々の支援活動に刺激された人もいたという。



復旧作業にボランティア参加した社員や派遣従業員



「地域社会に愛されるお店」を目指して

復興支援のための募金活動は、筑後地区にある6ホールで8月6日～31日にかけて行われたが、そのときに遊技客から預かった募金と、タイラベストビートからの寄付金を合わせた約216万円が、柳川市に贈られた。

ボランティア活動に参加した主任の一人は、「私たちがこの土地で営業させていただいているのは、地域住民のご協力あってのこと。地元を襲った災害でこうしたお手伝いをするのは当然の役目と思っています」といい、店長の一人は、「地域のお客様にご来店いただいているので、こちらから地域の方々に歩み寄っていくことも大事。こうした活動を通じ、企業理念である『地域社会に愛されるお店』を目指したい」と語る。

今回に限らず、タイラベストビートの従業員の社会貢献への関心は高く、ミーティングなどが行われると、地域社会への貢献をしたいという声がよくあがるという。「こうした活動や声は社内報などに取り上げ、従業員に周知するようにしています。また、社内には社員表彰委員会という組織があり、そこで社会貢献活動や地域貢献をした従業員を表彰することになっています」と、玉崎さん。こうした意識や活動は長年、続けている難病を抱えた子どもの夢をかなえることを目的に結成された国際的ボランティア団体「メイク・ア・ウィッシュ」への支援、ホール駐

車場内に特設会場を設けて社員はもとより、遊技客や近隣住民も参加する献血活動、全ホールに設置したAEDの全社員講習会参加などにもつながっている。



猛暑のなか、水没した家財道具の運び出しや分別処分、泥の搬出などを行った